火災から守ろう 子どもとお年寄り

最近は、子どもやお年寄りが火事でなくなることが多くなっています。

共ばたらきのご家庭やお年寄りのいるご家庭では、日ごろから火の元に注意するとともに、とくにつぎのことに気をつけてください

▽子どもさんのいるご家庭

・子どもの手の届くところ、目につくところに、マッチやライターなどをおかない

・火遊びをしないよう、家庭生活の中で防火についてよく話し合っておく

・子どもだけを残して外出するのはできるだけやめる

▽お年寄りのいるご家庭

・二階などをさけ、避難しやすいところに寝かせる

・一人だけ残して外出するのはできるだけやめる

・やむをえず外出するときは、ご近所によく頼んでおく

・できれば、お年寄りの近くにブザーの押しボタンをセットし、家人や隣家に急を知らせる用意をしておく

・万一にそなえて、火事を早くみつける火災報知器などをそなえる

日本一の ノッポはしご車登場

日々高層化する都市建物の災害に備えるため、10月末、小倉消防署に日本一高いはしご消防自動車を配置します。

この消防自動車のはしごは、地上約41㍍、これまでのはしご車より9㍍高いものです。これで13階程度の高層建築物でも、人命救助や消火活動が可能になり、その活躍が大いに期待されています。

119番 正しくかけよう

消防指令センター。119番はすべてここで受けます

火事はいつどこでおきるかわかりません。火事を出した人、見つけた人は一刻も早く局番なしの「119」番で知らせてください。

現在、北九州市内の119番は各消防署につながるのでなく、新市庁舎三階の〝消防指令センター〟に集約され、コンピューターによって各消防署に出動指令が出されています。

▽火事のとき

「火事です。○○区○町○丁目○番○号の○○です」

「目標は、○○ビルの西側です」

▽救急のとき

「救急です。○○区○町○丁目○番○号の○○です」

「患者の状態は○○です」

火事や救急を通報された方のお名前や、電話番号をおたずねする場合があります。ご協力ください。

火事の問い合わせは 582局1234番 消防トーキ・サービスへ

火事で消防車が出動すると、サイレンを聞いた人々から、問い合わせの電話が殺到します。

なかには、緊急用の119番で問い合わせをする人もあり、困っています。もし、そのとき他の場所で火事や救急事故があった場合、連絡ができず、たいへんなことになります。

そこで消防局では〝消防指令センター〟に問い合わせ専用の電話582局1234番を設けています。センターに火事の通報が入るとすぐに、テープに火事の発生場所、状況などをできるだけくわしく吹き込み、電話器にセットします。この電話は十回線が組み込まれており、同時に十人の問い合わせに答えることができます。

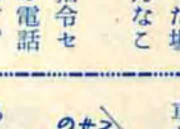
■働く消防写生会　10月15日（小倉区は22日）午前9時から、つぎの五会場で。各会場とも先着千名に画用紙を差し上げます。対象は小学校一～三年生。優秀作品には市長賞、消防局長賞などを贈呈。入賞作品の展示会は11月中旬から各区のデパートで行なう予定です。

〔会場〕門司区＝老松公園、小倉区＝市民会館前広場、若松区＝浜町小学校、八幡区＝筒井小学校、戸畑区＝浅生八幡神社境内。

救急車は 正しくご利用を

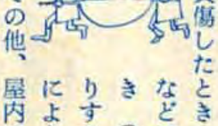
昨年の救急出動回数は八千四百三十九件もあり、年間十七%ぐらいの割合いで増えています。昨年は、市民百三十人に一人が、救急車で病院に運ばれたことになります。

現在、北九州市には十台の救急車がありますが、激増する利用に悲鳴をあげている状態です。中にはカゼを引いたからとか、腹が痛いからといった理由でタクシーがわりに使う人もいます。こうしたことで、本当に救急車が必要な事故に間に合わず、非常に困ったことがありました。



救急車は、つぎのようなときに出動します。出動の要請は局番なしの119番へ。

◎風水害、火災などの災害で負傷したとき　◎会社、工場などで作業中に負傷したとき　◎交通事故などで負傷したとき　◎公衆の出入りする場所で事故により負傷したとき　◎その他、屋内で生じた傷病で、緊急に病院へ運ぶ必要があるとき　◎医師の判断で、いったん収容した病院から他の病院へ緊急に転送するとき。



火事の卵　お宅は大丈夫？

≪昨年とことしの防火診断から≫

消防局では、住宅からの出火を防ぐため、一般家庭の防火診断を行なっています。

この診断は、人命の危険度、火炎発生危険度などを主とした数項目のチェックを行ない家庭内の〝火事の卵〟を発見しようというものです。この家庭防火診断は、昭和43年から行なっており、すでに5万3,129戸の診断をしました。欠陥を発見したところは、ほぼ改善されているようです。

昨年1月からことし8月までの診断で「火事のおそれがある」と認められたものは、実に2万3,526件にものぼっています。そのおもなものをつぎにあげてみました。あなたのご家庭でも心当たりのものはありませんか。

<電気>

○不良コードを取り替えてください…… 396件
○素人工事は危険です…………………… 760件
○タコ足配線はやめましょう………… 876件

<ガス>

○ゴム管がいたんでいます…………… 637件
○ゴム管にホースバンドを………… 3,913件
○器具の周囲に可燃物があります…… 942件

<暖房器具と燃料>

○器具は安全な場所で使いましょう… 304件
○器具がいたんでいます。修理を………43件
○燃料の置き場が不適当です………… 276件

<えんとつ>

○破損しています。すぐ修理を…… 1,103件
○たき口付近の可燃物を整理して…… 477件
○排煙口は屋根面から60㌢以上高く… 427件

<避難口>

○全く逃げ場がありません。2つ以上の避難口をつくってください………………… 779件
○階段や通路は常時通れるように…… 646件
○2階にはハシゴかロープを………… 736件
○子ども、老人、病人を2階に寝かせるのは非常に危険です……………………… 581件

すすめよう　火事のないまちづくり

防火委員を中心に各地で防火教室などが活発に行なわれています

北九州市では、昨年3月から毎月10日を「市民防災の日」と定め、この日には全市いっせいに、建物やその周囲の防災について点検を行なうこととし、危険のあるところはいち早く排除、改善するよう呼びかけています。

いっぽう、この運動をさらに充実発展させようと、各町内では「わたしたちの町は、わたしたちの手で守る運動」として、防火委員制度を採用することとなり、ほとんどの町内が防火委員を選びました。

この防火委員の方々を中心として、毎月各地区で防火座談会や消火器使用による消火実験、防火映画会など、地域の実情にあった、防災の行事が活発に展開されています。

この結果、昨年（46年）は一昨年（45年）の火災件数を一挙に半数近くに減らしています。さらにことしは、上半期（1～6月）ですでに昨年同期に比べて十一％の減少をみせるなど、火事のない都市づくりは着々と成果をあげつつあります。

今後も、この成果をさらに飛躍させるよう、「毎月10日」だけでなく、毎日毎日が防災の日となるよう、あなたもご協力ください。

「慣れた火に新たな注意」
11月26日から秋の火災予防運動

「慣れた火に新たな注意」を全国統一標語として、11月26日から12月2日までの一週間、秋の火災予防運動が行なわれます。

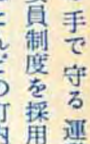
ことしの運動では、つぎのことを重点目標にしています。

▽家庭では――
・たばこの投げ捨てと寝たばこの防止
・火気使用場所の安全点検
・暖房器具の正しい使い方

など、くらしの中の防火再点検があげられています。

▽職場では――
・百貨店、旅館、ホテルなど不特定多数の人が出入りする建物の安全避難対策を第一として、避難路の確保、避難誘導の徹底などがあげられています。

消火器問答



とい　どこに売っていますか。

こたえ　市内で消火器を販売している店はおよそ二十四店あります。

職業別電話番号で〝消火器〟の項にのっています。

とい　家庭用の消火器はどんなものを買ったらよいでしょうか。

こたえ　家庭で使うタイプは、小型ABC消火器（四型）が最適でしょう。これは木材の火災や油、電気火災のどれにも使え、維持管理しやすいものです。

とい　セールスマンが販売にくるものを買っても大丈夫ですか。

こたえ　消火器には、どんな種類でも国の検査を受けた〝合格証〟が貼られています。この証がついている消火器を販売しているのであればまず安心です。

しかし、「消防署からたのまれて販売している」「お宅は、消防法によって消火器を置かなければならない。違反すると罰せられますよ」「あとから消防署が検査に来ます」などと、なかば強制的に押売りするセールスマンもいます。

過去に、消防署員に似た服装で、旧型の消火器を、時価より高く売り付けた悪質な商人もいました。

こうしたケースで、不審なことがあったら、もよりの消防署にご問い合わせください。